

第 10 回精神保健福祉士 専門科目
「精神保健福祉援助技術」
解答(やまだ塾解答速報の訂正版)・解説(簡易版)

2008 年 3 月 24 日 掲載

今年度は解答速報の段階ではあえて解答を 1 つに絞って掲載した。

その後は解答速報の逐一の訂正はしなかったが、今回の解説(簡易版)とあわせてやまだ塾の解答速報の訂正を行う。

また、複数回答(解なしを含む)の可能性のある問題も今回指摘している。

なお、国家試験として疑義のある問題については、4 月以降に掲載する解説(詳細版)の段階において、昨年度同様に「脇の甘い問題」として掲載する予定である。

「精神保健福祉援助技術」の訂正箇所

- ① 問題 58 : 1 → 2 に訂正
- ② 問題 68 : 5 → 4 に訂正

番号	設問	解答速報 (1/28.17:00)	やまだ塾の 解答(解答速報の訂正版)と解説(簡易版)
51	精神保健福祉士 が行う役割	1	やまだ塾の解答:1 AO BO C×「医行為である」 DO
52	精神保健福祉士 の対応	3	やまだ塾の解答:3 AO B×「成年後見制度を利用すると選挙権を失い、同行は不要である」 CO D×「家庭裁判所に報酬付与の審判を申し立て、家庭裁判所が報酬額を決定する」
53	チームアプローチ における精神 保健福祉士の役 割と機能	3	やまだ塾の解答:3 AO B×「常に中心になるわけではない」 CO D×「災害時の支援においても、精神保健福祉士は“医師の指導”を受けることに変わりはない」

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2008 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

54	精神保健福祉士の職業倫理	4	<p>やまだ塾の解答:4</p> <p>A×「1982年にY問題が提起した課題を踏まえた協会の組織活動の基本方針を明確にし、「札幌宣言」として「精神障害者の社会的復権と福祉のための専門的・社会的活動を進める」ことを組織活動の中心に据えた」</p> <p>BO</p> <p>C×「“本人の了解”が必要である」</p> <p>DO</p>
55	精神保健福祉士が行う集団援助技術	3	<p>やまだ塾の解答:3</p> <p>AO</p> <p>B×「なじめるように援助することが必要である」</p> <p>C×「グループワークの作り出す集団過程を見守ることも求められている」</p> <p>D×「バウムテストは人格・性格検査である」</p>
56	就労移行支援事業における精神保健福祉士の支援方法	4	<p>やまだ塾の解答:4</p> <p>1○</p> <p>2○</p> <p>3○</p> <p>4×「就労移行支援の活動として不適切である」</p> <p>5○</p>
57	精神保健福祉士が行う集団援助技術	3	<p>やまだ塾の解答:3</p> <p>AO</p> <p>B×「“目的や目標にとらわれない”は不適切である」</p> <p>CO</p> <p>D×「集団援助技術の対象ではない」</p>
58	マッピング技法	1 (2に訂正)	<p>やまだ塾の解答:2</p> <p>AO</p> <p>BO</p> <p>C×「“インフォーマル・サポートとフォーマル・サービスで形成される連結”である」</p> <p>D×「“システム理論や生態学的理論の知見”である」</p> <p><訂正の理由></p> <p>・番号の記載ミスでした。</p>
59	精神保健福祉士による介入	1	<p>やまだ塾の解答:1</p> <p>AO</p>

			<p>BO</p> <p>CO</p> <p>D×「独断で介入してはならない」</p>
60	ストレングスモデルの理解	4	<p>やまだ塾の解答:4</p> <p>A×「個人や環境のストレングスの十分な活用・強化を重視する」</p> <p>BO</p> <p>C×「スピリチュアリティという用語は、終末期医療におけるスピリチュアル・ペインやスピリチュアル・ニーズという言葉、WHOでの健康の定義の議論におけるスピリチュアルな次元、AA(アルコールアノニマス)の活動の目標におけるスピリチュアル・グロースとして用いられている」</p> <p>DO</p>
61	精神保健福祉士の対応	4	<p>やまだ塾の解答:4</p> <p>A×「“毎日”は不適切である」</p> <p>B×「スイミングスクールは文脈にはない」</p> <p>CO</p> <p>DO</p>
62	個別援助技術におけるアセスメント	4	<p>やまだ塾の解答:4</p> <p>A×「臨床的直感も重要である」</p> <p>BO</p> <p>C×「支離滅裂な文章である」</p> <p>DO</p>
63	精神保健福祉士の対応	3	<p>やまだ塾の解答:3</p> <p>AO</p> <p>B×「インテーク段階での対応としては不適切である」</p> <p>CO</p> <p>D×「“働いてみたい”というニーズへの支援を最優先すべきである」</p>
64	精神保健福祉士が活用しようとするソーシャルサポートネットワーク	5	<p>やまだ塾の解答:5</p> <p>1O</p> <p>2O</p> <p>3O</p> <p>4O</p> <p>5×「精神科病院の入院患者の人権擁護の観点に立って、入院継続の要否、入院患者からの退院請求・処遇改善についての審査を行う機関である」</p>

65	ケアマネジメント	2	<p>やまだ塾の解答:2</p> <p>AO</p> <p>B×「“定められた基準”はない」</p> <p>CO</p> <p>D×「“ストレングスモデル”である」</p>
66	精神保健福祉士が行うスーパービジョン	4	<p>やまだ塾の解答:4</p> <p>A×「“食事に誘い励ました”だけではなく“適切な助言や指導を行う”ことが求められる」</p> <p>BO</p> <p>CO</p> <p>D×「スーパーバイザーの話を聴くことが重要な時期である」</p>
67	医療機関の精神保健福祉士が行う退院支援	2	<p>やまだ塾の解答:2</p> <p>1O</p> <p>2×「森田療法は、対人恐怖や不安神経症などに適応する」</p> <p>3O</p> <p>4O</p> <p>5O</p>
68	精神保健福祉士が行う援助	5 (4に訂正する)	<p>やまだ塾の解答:4</p> <p>A×「引きこもりになる原因は多様である」</p> <p>BO</p> <p>C×「“集団援助は適さない”とは言い切れない」</p> <p>DO</p> <p><訂正の理由></p> <p>・早とちりをした。</p>
69	精神保健福祉士による支援	3	<p>やまだ塾の解答:3</p> <p>A×「うつ病への支援としては不適切である」</p> <p>BO</p> <p>CO</p> <p>D×「復職者に対する社会適応訓練事業の利用は不適切である」</p>
70	精神保健福祉士が行う支援	2	<p>やまだ塾の解答:2</p> <p>AO</p> <p>B×「所属先の企業に無断で就業(アルバイト)はできない」</p> <p>CO</p> <p>DO</p>

71	人事部長に対する助言	4	<p>やまだ塾の解答:4</p> <p>A×「取得は本人の意思でなされるものであり, 本人に確かめなければならない」</p> <p>BO</p> <p>C×「取得は本人の意思でなされるものである」</p> <p>D×「手帳の保持がカウムの要件である」</p>
72	グループワークの開始期	3	<p>やまだ塾の解答:3</p> <p>AO「下記の解説を参照のこと」</p> <p>B×「同席することについて夫婦間での話し合い・同意の手続きが必要であり, 単に“二人で同席するよう勧める”だけでは不適切である」</p> <p>C×「反発をしている状況で, 対決姿勢の状況を設定すべきではない」</p> <p>DO</p> <p>(解説)</p> <p>・やまだ塾では, 解答速報時点から解答は 3or5 のいずれでもあり得ると考えている。要は, 設問AのO×であるが, やまだ塾では設問AをOとした。</p> <p>・以下に, 設問Aを×と主張したスタッフの意見を掲載する。</p> <p>・「やめようと思えばいつでもやめられる」などと発言するアルコール依存症者は断酒の決意が消失することが多く, 入院中の優等生はみせかけの浅い断酒動機で, 制約・制限がなくなると再飲酒する傾向にあるといわれる。「妻も私も飲酒以外は問題ないと思っている」と口調を強めた」という反発的な発言には「自分だけは違う」というアルコール依存症者に特有の思いあがり, 根拠のない自信, 妻を引き合いに出す共依存の状況も垣間見える。本設問においても, “アルコール依存症者は自分がアルコール依存だということを否認する”ことを前提にしなければならない。本設問のARPのグループワークでは, 正しい医学的知識, 疾病であることを認識すること, 他者の話を聞くことで自分がアルコール依存症であることを認識させることが目的となる。設問Aの開始期では, アイスブレーキングやグループワークの目的を理解しやすいように説明することが重要であり, 設問Aの“決意をグループで確認する”ことは不適切である。</p>

73	グループワーク の作業期	3	やまだ塾の解答:3 A×「作業期にすべきことではない」 BO CO D×「ARPですべきことではない」
74	参加しているセ ルフヘルプグル ープ	1	やまだ塾の解答:1 1O, 2×, 3×, 4×, 5× キーワード:アルコール依存症者, セルフヘルプグループ, 12のステップを使ったミーティング
75	専門職の役割分 担	3	やまだ塾の解答:3 AO B×「“就労継続”は市町村の対応である」 CO D×「“主治医とのつなぎの役割”は精神保健福祉士, 施設長, 病院の訪問看護師が適切である」
76	2人の同居生活 の課題に対する 支援	5	やまだ塾の解答:5 A×「本人の意思を尊重すべきである」 B×「“再燃時”は医療的な対応が優先されるべきである」 CO DO
77	急に怒り出した 原因として考え られること	2	やまだ塾の解答:2 1O「健常者から見れば推測できる」 2×「健常者から見ればいじめの要素は事例文中にはないと推測できるが, 下記の解説を参照のこと」 3O「健常者から見れば推測できる」 4O「健常者から見れば推測できる」 5O「健常者から見れば推測できる」 (解説) ・統合失調症者には認知障害があるがゆえにSSTなどの認知行動療法が適応される。健常者の考える“急に怒り出した原因”を設問することに疑問がある。まず, “急に怒り出した原因”を本人に聞いてみるのが大切であり, 本事例においても設問2を怒りだした理由と答えるかもしれない。問題作成者の「パターンリズム」を感じさせる設問である。

78	初回面接場面で の3人の対応	5	<p>やまだ塾の解答:5</p> <p>A×「“精神科医”と限定されない」</p> <p>B×「“母親”からの情報が優先される」</p> <p>C×「初回面接では不適切である」</p> <p>DO</p>
79	精神保健福祉士 が訪問をするに 当たって活用す る知識と技術	5	<p>やまだ塾の解答:5</p> <p>A×「この時点で母親に求められているのは“医療によるアプローチ”ではない」</p> <p>B×「この時点で求められるアプローチではない」</p> <p>CO</p> <p>D×「この時点では本人とはコンタクトできていないので不適切である」</p>
80	精神保健福祉士 が行ったこと	4	<p>やまだ塾の解答:4</p> <p>A×「性急に解決しようとするのではなく、“本人の話をよく聴く”ことが重要である」</p> <p>BO</p> <p>C×「性急に解決しようとするのではなく“本人の話をよく聴く”ことが重要である」</p> <p>DO</p> <p>(解説)</p> <p>・おそらく、問題作成者の意図は、ACTの一般論(「ACT-J」の基本的な5原則)などを想定しているのであろうが、特に、「ひきこもり」における援助関係は繊細で中断しやすく、問題を性急に解決しようとすると取り返しのつかない状況になることを念頭において、やまだ塾では4を解答とする。やまだ塾では、解答速報時点から本設問の適切さには疑問を持っている(解答は3or4or5のいずれでもあり得る)。</p> <p>・やまだ塾では、薬物療法などの医療的ケアが必要であって引きこもっているケースでは、ACTの一般論を過信せず、目の前にいる本人の話をよく聴いて、何が起きているのかを理解しようとする姿勢が重要であり、本事例のこの状況では、まずは“受診援助”が中心であると考えられる。</p>